河陽新聞
熊本市南部地区市民の会
発行責任者　村田幸博

熊本城マラソンin川尻の風景

今年で第2回目を迎えた川尻のマラソンコースは、多くの報道陣が眺められました。

川尻校区体協を中心に支援

今年で２回目となる熊本城マラソン大会は、２月１７日（日曜日）の午前中に実施され、「歴史めぐりフルマラソン」コースになっている川尻校区は大勢の応援者とボランティアスタッフで盛り上がりました。

肥後銀行川尻支店前に１５キロ地点の水補給処が設けられ、川尻校区体協（高浜亨会長）を中心に１０８名のボランティア・スタッフが組織され、後片付けまでスムーズな運営が評価されました

歴史めぐりフルマラソンコースに設定されている川尻校区は。１４キロ～１６キロ地点の約２キロメーターで、ルネサス工場前のＪＲ高架橋からガトーアンリー前を右折し、旧薩摩街道を一路南に走り、肥後銀行川尻支店の１５キロ地点に水の補給所が設けられ、川尻四つ角交差点を右に曲がり、ズイヨウ酒造から西郷本陣跡、そして川尻お蔵前船着場から外城（７町内）から日和見山（ひよりみやま）の区間で、道路には応援の人々が切れることなく昨年は一番人気のコースでもありました。

先頭ランナー達の前を２台の白バイが誘導し、上空にはヘリコプターが飛び、さっそうと走る７名の集団、その後はバラバラの小集団が走ぬけ、いっしか団子状になった無数のランナーは途絶えることなく２時間程度も川尻を走りぬけると言う状況でした。

川尻校区からも十数名がエントリーし、地元ランナーが走るたびに各所から声援が沸き起こる、身近なマラソンでした。

昨年の第１回大会で人気を呈した川尻校区は、今年は多くの報道関係も目立ちました。

また、各町内やグループからエントリーする選手の応援看板も目立ち、参加者には一生忘れることの出来ない地域愛の想い出となった事でしょう。

選手の中には、本当に川尻のカンバンを掲げたユニークな選手（７町内の益本武士君）も登場し、マラソン大会と地区を盛上げていました。

また今年も、工芸会館の前では「かわしり・ひよっとこ愛笑会」が音楽入りでコースを沸かせ、川尻四つ角で配れられいた「塩の補給」は、多くのランナーにも人気がありましたがカメラマンにも人気の様子でした。

今年で２回目となった熊本城マラソンは「水と伝統の町かわしり」を、さらに盛り上げる催しと。

コースでは人波が切れることなく声援がありました。
ユニークな応援隊の様子を紹介

新聞づくりのスタッフを探しています。

南部地区市民の会は、昭和６１年４月に設立され２７年の歳月が過ぎました。

当初から、自治会はお父さん、婦人会はお母さん、そして、会の目的は、川尻校区の良い物を良い形で次の時代へ伝え残すこと、さらに、暮らしてみたい町を追い求めることでした。

２７年の歳月が過ぎた今日、多くの子供や青年たちが川尻校区の文化を引き継ぎ色々な活動を展開しています。

うれしい限りです。

川尻校区では年間を通じ色々な催しや行事が行われています。

川尻校区のマラソンコースには、「歓迎」や「激励」などの横断幕が数多くかかげてありました。

川尻校区からのランナー紹介（左から）12町内の伊津野　博さん・甲斐知昭さん・10町内の豊永　愛さん!

スタートから15kmを過ぎたランナーの皆さんは、川尻の町並みや歴史・文化を味わっていました。

マラソンコースには、それぞれのグループや町内ごとに工夫をこらして応援する姿が印象的でした。

川尻校区からエントリーされた11名のランナー、また、応援された数多くの皆さん！　お疲れさまでした。